

新しい年が明けました。いかがお過ごしでしょうか。今年は「戌」年「申、酉騒いで戌笑う」という言葉があるそうです。去年、一昨年と騒がしくうろたえても、戌年には笑う、いいことがあるというこのようです。皆さんにとっても今年が「笑い」いっぱいといい年でありますようにお祈りします。

<第127回 ほほえみの会 >

堀越医師をはじめ初参加の方3組を含め10人が参加しました。

▽ 3歳男の子、神経芽腫。12月のはじめから足が痛いと言っていて1月4日に病院で診てもらい病気が発覚、こども病院へ入院。最初は整骨院へ行っていたが関節炎だといわれていた。しかし、痛さで夜も寝られず、這って歩くようになり病院で診てもらった。浜松に住んでおり、聖隷病院を紹介されたが24時間付き添いが必要とのことで完全看護のこども病院へ。静岡の母親の実家に1歳の妹も含め一家で暮らすことにした。

▽ 5ヶ月男の子、神経芽腫。生後3ヶ月で突然お腹にしこりが出来た。しこりは1日で急に大きくなった。子供の元気はいいが、離乳食を始める時期なので心配。病棟のほかの子も元気で勇気づけられる。2歳の兄がいるが同じ病気に罹っていないか心配で検査をしたい。

▽ 3歳9ヶ月、急性リンパ性白血病。おとしし入院して治療は順調に進んでいる。今は外来治療と6週間に一度の入院治療をしている。幼稚園にも行っている。6歳の兄がいるが自由画帳を塗りつぶしたり、言葉がどもったり異常が出ている。週に一度は面会をやめて兄と一緒にいるようにしているが心配。

兄弟の問題は参加者からもさまざまな体験談が出ました。

兄弟でも上の子はおりこうさんで通すが寂しさを隠しているだけで大きくなってからも精神的に後を引いていることがある。悪いことをして困らせたりする子の方がその時は大変だが時期が来れば治る。異常のサインが出ている方がいいのではないかという意見がありました。また、「〇〇ちゃんは病院で頑張っているからあなたも頑張って、しっかりして」という言葉は言わないほうが良い。一方で、兄弟がいることで患児が元気になることもある。兄弟の見えない力は大きい。という話もありました。

▽ こども病院が小児救急医療を始めました。月に6回、夜間や休日の当番病院になります。インフルエンザやおたふくの子供も来院することになり、血液腫瘍科とは別な部屋で診察をするなど入院中の子供に迷惑をかけないようにするとのことです。これは、こども病院が地域に開かれた病院になることを目指し、小児科医院や医師が減っている状況の中で、地域の小児医療を大きなチームで作っていきたいという考えから、議論を重ねた上で始めたということです。

☆ 多くの方から年賀状を頂き、娘の心配や励ましをいただきました。ありがとうございます。昨年、骨肉腫の手術をした娘は年末の骨シンチ、MRI検査で脊椎に陰が出ました。転移を心配しましたが、年明けにがんセンターでPET検査をした結果、問題がないことがわかりました。どうやら転んだときに骨折をしたようです。ご心配をおかけしました。本年もよろしくお祈りします。

次回は 2月12日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>